

子どもの未来を最優先！

林さえこの 柏市議会 Report

No.
34



〈発行〉2024.1.10

柏市議会議員
林 さえこ

各SNSは
こちらから
プロフィール



〈お問い合わせ〉

林 さえこ事務所&市民ネットワーク・かしわ

〈事務局:火水金9:00~13:00 祝日は休み〉

〒277-0011

柏市東上町2-28 第一水戸屋ビル3F

Noblesse Oblige

TEL:080-7628-7737

12/6(水) 2023年第4回定例会 林 さえこ一般質問項目

- 政治参加と市民意見の反映
- コロナワクチン後遺症
- 障害児の子育て支援
- 保育料の多子世帯減免
- 校舎と体育館の断熱状況

- こども食堂と食料支援
- 人工芝は問題だらけ
- 義務教育校と不登校
- 寄付本の取扱い

定例会が11月24日(金)から
12月13日(水)まで行われました。
本会議の録画は柏市のHPで見る
ことができます。



※「一般質問」は市の事務の執行状況の報告や計画について市長や担当部長に質疑し、市民のための適切な市政運営を進めているかを議員がチェックするものです。

多子世帯の保育料

国の制度がケチくさい

柏市には国の基準通り、多子世帯と母子父子・在宅障害世帯の保育料軽減策があります。しかし多子世帯の軽減策は、市民税所得割が5万7,700円以上の場合、第1子が小学校就学前の世帯に限られてしまいます。同じ多子世帯でも、兄弟間の年齢差が小さい場合しか負担は軽減されません。

政府が3人以上の子どもがいる多子世帯について大学授業料を無償化する方針で検討していることも話題になっていますが、「3人以上」「小学校就学前」など、なぜ負担軽減策に線引きをしたがるのでしょうか。どんな家庭に生まれようと格差なく保育や教育を受けられる社会でなければ、安心して子どもを生み育てることはできません。「異次元の少子化対策」が聞いて呆れます。

広がる自治体の支援

東京都では10月から、0~2歳の第2子の保育料が完全無償化されました。所得制限もありません。同様に川崎市も、来年度から上の子の年齢や所得の制限を撤廃すると表明しました。他には静岡市や神戸市、明石市、県内では市川市が制限を撤廃しています。

6月に発表された『こども未来戦略方針』でも国が制度改正する見込みがなく、独自に制度の拡充に踏み切る自治体が増えています。

柏市ではどうする？

今回の議会では、柏市で第1子～の年齢制限を撤廃した場合の影響について答弁を求め、影響人数は623人、影響額が2億3000万円と試算されました。太田市長は子育て支援に前向きな市長ではありますが、柏市の負担が大きい施策であり、今後の実施について明確な答弁はいたただけませんでした。国の制度改革を求めると共に、東京都のように県の支援で進めていく方向性も検討したいということです。

年齢制限の撤廃までは難しくとも、せめて少し引き上げなどの選択肢もありますので、引き続き負担軽減策を市職員と共に模索していくべきだと思います。

柏市の保育料の減免について

収入要件	多子世帯	母子父子・ 在宅障害世帯
市民税非課税	無料	
市民税 均等割りのみ ～所得割57,699円	生計を一にする 兄・姉がいる 第2子 半額 第3子 無料	第1子半額 ※0～2歳…最大9,000円 ※3～5歳…最大6,000円
市民税 所得割 57,700円～77,100円	小学校就学前の 兄・姉がいる (保育園等に通園) 第2子 半額 第3子 無料	第2子無料
市民税 所得割 77,101円以上	第2子 半額 第3子 無料	通常額

※軽減後の保育料は10円未満切り捨て

出典：柏市HP

マイクロプラスチック問題

科学技術で環境問題の解決を目指す一般社団法人ピリカは2020年、多くの企業や研究者と協力してマイクロプラスチック等の流出実態調査を実施。国内120地点の川や湖、海のうち112地点でマイクロプラスチックが採取され、成分の分析が行われました。

結果から年間140トンものマイクロプラスチックが日本から流出していること、日本では流出製品に占める人工芝の割合が突出して高いことが指摘されています。なんと個数比で19.6%、質量比で25.3%のマイクロプラスチックが人工芝でした。

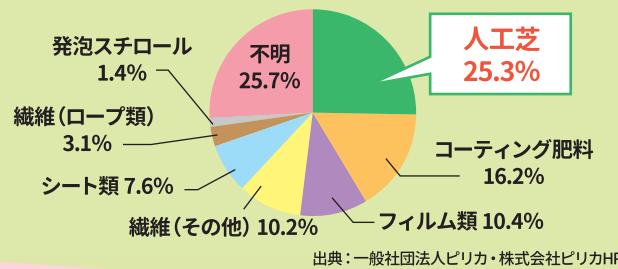


一般社団法人
株式会社ピリカ
公開調査結果

マイクロプラスチック流出実態調査 ALBATROSS2020の調査結果概要

国内120地点の川や湖、海のうち112地点でマイクロプラスチックを採取。成分を分析し元の製品を推定。

【マイクロプラスチック推定製品 質量比】



流出抑制対策を

屋外の人工芝は表面のパイル片や充填材が雨水とともに排水施設に流れ込み、下水道や河川から流出していると考えられます。公益財団法人日本スポーツ施設協会は2021年、「人工芝グラウンドにおけるマイクロプラスチック流出抑制に関するガイドライン」を作成し、排水溝へのフィルター設置などの対策、日常的な点検と撤去を呼びかけています。大阪府も今年、同様のガイドラインを作成し、環境省は啓発ポスターとリーフレットを公表しています。柏市にも流出抑制対策を求めました。

対策しても飛んでいく

柏市には少なくとも45の公共施設に、計37,745m²の人工芝が敷かれています。面積が大きいのはテニスコートであり、今後は環境負荷の低減に努めるという答弁がありました。

しかし、大阪府での調査では、人工芝の損耗量と排水溝から捕捉できたマイクロプラスチックの量に大きな差が生じています。細かい粒子になったマイクロプラスチック

夢の義務教育学校？



突然の公表

9月初旬、柏市教育委員会は「柏第一小学校の校舎の老朽化による建て替えに合わせ、柏第一小学校と旭東小学校を柏中学校の敷地へ移転する。小中9年間を見通した新校舎を整備して、2028年4月に義務教育学校の開校を目指す。」と公表しました。

義務教育学校は9年間のカリキュラムで指導を進める学校で、6-3教育ではなく4-3-2教育や5-4教育の導入も可能になります。9学年を通して校長は1人が担い、原則的には小学校と中学校両方の免許を保持している教職員が配置されます。

教育委員会では公表まで、公の会議でこの計画について議論してきませんでしたが、調べると「小中一貫校検討ワーキンググループ」や「柏市未来につなぐ魅力ある学校づくり基本方針策定に係る市教育委員会内検討会」などの府内会議で1年前から話し合われていたことがわかりました。



柏中学区での
小中一貫校設置
について
柏市HP

当事者においてけぼり

今回の義務教育学校設置計画の一番の問題は、当事者である子どもや保護者の意見を聞かないまま、既定路線として話が進んでいるところです。柏第一小学校と旭東小学校の保護者からは「学校から“5年後に小中一貫校にする”との手紙が一枚届いただけで、何の説明もない。」「一番影響を受ける幼稚園や保育園の保護者には第一報さえ届いていない。」「保護者にちゃんとアンケートを取ってほしい。」など、説明がないことへの不安や当事者の想いが届かないことへの不満が聞こえます。

教育委員会は「年明けから地域住民、教職員、子どもたちに説明し、不安解消に努めます。」とは言うものの、「義務教育学校設置は決定事項なのか?」「路線変更はあり得るのか?」などの追及には全て「ご理解いただくよう全力を尽くします。」と返し、子どもや保護者から反対されても計画を変更するつもりがない強硬な姿勢を印象付けました。

問題だらけ

クは風で飛ばされている恐れがあり、小まめな清掃や排水溝へのフィルター設置だけでは不十分です。新設や改修の際には人工芝を止め、将来的には屋外の人工芝をゼロにしてほしいと要望しました。



おおさか
プラスチック対策推進
プラットフォーム
令和4年第2回
会議資料

柏市の主な人工芝設置施設

	用 途	面積(m ²)
富勢運動場	テニスコート	9,072
柏の葉庭球場	テニスコート	5,019
逆井運動場	テニスコート	4,998
手賀の丘公園	テニスコート	2,668
市立柏高校	テニスコート	2,551
大津ヶ丘中央公園	テニスコート	2,280
宮田島運動場	フットサルコート	1,866
しいの木台公園庭球場	テニスコート	1,451
柏ビレジ近隣公園	テニスコート(自治会管理)	1,350
柏ビレジ近隣センター	テニスコート	1,240
沼南体育館	フットサルコート	1,029
旧そごう柏店本館脇線路沿い空間	遊び場	965
手賀の杜スポーツ広場	多目的コート・テニスコート	864
その他32施設		2,392
45施設	計	37,745m ²

気候変動と脱プラ

人工芝の原料であるポリエチレンやポリプロピレンは、太陽光で劣化すると、メタンやエチレンなどの温室効果ガスを発生します。メタンは CO₂ の 28 倍の温室効果を持つと言われています。

そもそも、原油採掘から、流通、製造、消費、処分の各段階で排出される CO₂ の量はプラスチック 1kg 当たり 5kg にもなります。気候危機宣言をした柏市では積極的に脱プラすべきです。

イチカシのサッカー場

人工芝は維持管理コストが安いという理由で公共施設に取り入れられがちですが、張り替えと廃棄まで含めたライフサイクルコストは天然芝の方が安いことが分かれています。つくば市が市内の 2 つのサッカー場で実際に 10 年間に掛かった費用を算出したところ、人工芝のサッカー場は 1 億 5,500 万円、天然芝では 1 億 5,000 万円でした。

実は現在、市立柏高校に新たに人工芝のサッカー場を作る計画が進んでいます。マイクロプラスチック流出抑制対策は行うとのことですが、人工芝のグラウンドには、足首のけがの増加、夏場は表面温度が 70°C にも達し熱中症リスクが高まること、揮発性の化学物質が発生することも指摘されています。

子どもの健康に代えられるものはありません。今からでも設計変更をしてほしいと要望しましたが、前向きな答弁はありませんでした。

超マンモス校になるかも

これまで全国で設置された義務教育学校の事例からは、都市部での義務教育学校は大規模校化につながり、一人一人に目が行き届かなくなるというリスクが指摘されています。大規模校化によって校庭や図書室の利用が制限されるなど、子どもたちに我慢を強いている事例もあります。

当初の説明では、「設置される義務教育学校は 1,400 人規模で、その人数を受け入れる十分なスペースが柏中学校にはある」とのことでした。しかしワーキンググループの報告書には「最大 2,000 人規模になる恐れがある」とあります。9 年間を見通した切れ目ない丁寧な指導のために義務教育学校を設置するという説明が繰り返されていますが、超大規模校になんてそれは可能でしょうか。

ゼロベースで話し合いを

柏第一小学校の建て替え時期が迫っていること、狭い敷地の現地での建て替えが難しいことから、広い柏中学

校の敷地内に新校舎を建てるという方向性に一定の理解はできます。しかし、そのような事情と現在の学校教育の課題を説明した上で、小中一貫校や義務教育学校を導入した場合とそうではないシナリオを比較し、子どもや保護者、地域住民としっかり議論してから方向性を決めるべきです。

みんなで議論をした上で一番良い選択肢が義務教育学校であれば反対しません。いかに市民意見を尊重し市政に反映させていくかという姿勢が、柏市には足りないと感じています。

現役ママ議員としゃべろう

LINE相談・おはなし会



柏市へのご要望、暮らしの困りごとなど、公式 LINE にてお気軽にご相談ください。議会報告会やおはなし会も開催いたします。ご希望の方はお問い合わせください。



市長が重視していても

太田市長が就任して2年、任期の折り返し地点です。就任当初から市民団体の要望活動に応じ、ご自身の考えをご自身で述べている太田市長は「市民と向き合う市長」と考えています。

しかし中面記事の「夢の義務教育学校？」でも示したように、当事者や市民の声を十分に聞かないまま大きな事業が進むことがあります。柏駅西口北地区の再開発事業や布施南地区のデータセンター建設、都市計画マスターplanなど、議会でもたびたび取り上げられる問題です。パブリックコメントも、意見を反映して計画案が修正されることはほとんどなく、取り組み自体が形骸化しています。

市民意見の反映は市長としても重視しているとの答弁です。全ての部署の全ての職員が何か1つ事業を進めるたびに、市民意見がちゃんと反映されているのか振り返って考えてほしいと思います。

こども食堂への支援

フードドライブと食料倉庫

6月、廃棄物政策課がリサイクルプラザリボン館での常設フードドライブを始めました。フードドライブは不要な食料品を集め、フードバンクや福祉施設等に寄付する活動です。

寄付された食料品は、柏市地域生活支援センター「あいネット」と、こども福祉課が設置した食料品倉庫に運ばれます。倉庫の食料品は社会福祉協議会が管理し、10月から各こども食堂に提供されています。縦割りと揶揄される行政で、フードロス削減とこども食堂への支援を結びつける流れを確立した点を高く評価しています。

しかし、せっかく柏市へ寄付された食料品があるのに、スクールソーシャルワーカーや民生委員児童委員は利用対象とされていません。こども食堂活動と連携してスクールソーシャルワーカーや民生委員児童委員が取り組んでいる個別支援の現状を伝え、事業対象を広げること、またそもそも個別支援に必要な予算を行政が確保することを要望しました。

助成金が足りない

各こども食堂は社会福祉協議会のこどもみらい基金から「こどもの居場所活動助成金」を受けて運営しています。しかし、この金額は十分とは言えず、多くの団体は民間の補助金や寄付で資金繰りしています。中には運営ボラ

市民の声を市政に

かずミーティング

太田市長は、4月から「ふるさと座談会～かずミーティング～」と称して、ふるさと協議会などの地域で活動している方を対象とした交流会を行っています。議事録を見ると、交通や防災、教育、高齢者支援など様々な意見が出ています。意見に対しての市長の見解をその場で伝えるだけではなく、市民の意見を担当課に伝え、現状と課題の報告を市長に戻すという素晴らしい取り組みです。

今年度21地域を巡回した後、次年度に同様の事業を行うのか否かまだ決まっていなかったため、次年度も続けてほしいこと、そしてもっと様々な市民が参画できるような開いた事業に発展してほしいことを要望しました。

何らかの形で続けるとの答弁があり、期待しています。



ふるさと座談会
～かずミーティング～
柏市HP

ンティア自身が自腹を切っている場面も見られます。

明石市のように1回あたりの食材費をしっかり支える助成金を設置している自治体もあることから、柏市でもこのような助成を検討することを求めました。

明石市と柏市のこども食堂への運営助成の比較

▶ 明石市こどもの居場所づくり事業助成金 ◀

一般的なこども食堂	食事型	市販品型	テイクアウト・デリバリー型
運営助成(開催1回につき)	20,000円	10,000円	30,000円
特別助成(年度に1回)	50,000円	30,000円	50,000円
衛生管理助成(1人当たり)		8,000円	
専門職連携助成		5,000円	
助成の上限額(年度につき)		1,300,000円	
飲食店が運営する場合	食事型	市販品型	テイクアウト・デリバリー型
運営助成(開催1回につき)	10,000円		15,000円
特別助成(年度に1回)		20,000円	
衛生管理助成(1人当たり)		—	
専門職連携助成		5,000円	
助成の上限額(年度につき)		650,000円	

明石市が2018年に設立した公益財団法人こども財団が運用

▶ 柏市こどもの居場所活動助成金 ◀

	月1回程度	週1回程度
食を通したこどもの居場所	年間50,000円	年間100,000円
学習支援のこどもの居場所	年間50,000円	

柏市社会福祉協議会がこどもみらい基金を元に運用

※両方実施していても助成金はどちらか一方のみ

※飲食店が運営するこども食堂は助成を受けられない

出典：出典：あかしこども財団HP、柏市社会福祉協議会HP